

「地域包括ケアシステムの中の歯科医師会の役割」 神戸市西区歯科医師会 会長 竹中 博 氏



関係各位の皆様には西区歯科医師会の各種事業にご協力賜り厚くお礼申し上げます。

団塊世代が75歳以上となることで国民の4人に1人が後期高齢者になり、その結果として起こる、社会保険費の負担増や働き手不足などが問題視される2025年問題も、気が付いてみればもう来年に迫っています。2025年問題で、まず直面するのが「人口問題」です。後期高齢者が急増する一方で、若い世代が減少し、少子高齢化はさらに加速していきます。その中でも特に問題視されているのが、「労働力人口の減少」のようです。さらには労働人口の減少の影響がもっとも大きいのが「医療業界」と言われています。医療や介護サービスの利用が急増する中、病院や医師の数が減少傾向にあり、医師や看護師の人手不足が深刻になっています。医療を必要とする高齢者が増加する一方で、医師不足という深刻な問題に直面します。また、「要介護」の高齢者が急増する一方で、介護人材の不足も懸念されています。

これらの問題に対して政府は重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築を施策として掲げました。我々の職種においてもいろいろな施策や取り組みが謳われ、今回の診療報酬改定においても在宅医療は、高齢になっても、病気や障害の有無にかかわらず、住み慣れた地域で自分らしい生活を続けられるよう、入院医療や外来医療、介護、福祉サービスと相互に補完しながら、患者の日常生活を支える医療であり、地域包括ケアシステムの不可欠な構成要素であると記載されています。我々歯科業界に対する期待が大きくなる一方で我々もその期待に応えられるように努力することも求められています。



さて、ここからはミクロ的な視点となりますが、この2025年問題に関連した歯科の問題に対して我々西区歯科医師会が取り組んできたことを紹介するとともにその成果について考察してみたいと思います。まずは歯科外来での通院が困難になられた患者さんに対し行う訪問歯科診療ですが、個人的に対応している会員は別として、神戸市歯科医師会が実施主体となっていて行っている事業の中の西区から依頼のあった分を当会が引き受けております。当会会員8名がそれぞれの担当地区を受け持ち、神戸市歯科医師会からの訪問診療要請に対し的確に派遣歯科医を決定し可能な限り迅速に訪問歯科診療を行っています。この数年はある病院からの訪問歯科診療の依頼が増え、現在、神戸市9区で神戸市歯科医師会を通じた訪問診療依頼件数は一番多くなっています。在宅において寝たきり状態で歯科医院に通院困難な方のQOLの維持向上のために大きな役割を果たすと言われている口腔ケアですが、会員が個人的に訪問口腔ケアを実施している数は会としては把握できていませんが、神戸市歯科医師会が窓口となって実施されている事業統計から判断すると決して多い数ではないことが推察されます。これは何も西区だけに限ったことではありませんが、当会としても今後積極的に事業を進めていきたいと考えています。これとは別に主に施設の職員の方々を対象とした口腔ケアの研修会を数年来開催し多くの方々にご参加いただいております。また、近年耳にすることが多くなったオーラルフレイルに関しては、予防管理することが我々歯科医師の重要な仕事であると認識しており、予算と人材の関係で地域の方々に十分貢献できているとは言い難い面もありますが、いきいき百歳体操の取り組みを活用させていただく形で社会福祉協議会やあんしんすこやかセンターの職員の方々等の協力をいただきながら、会員歯科医師の講演と口腔機能の検査を実施しています。今年度も準備が整い次第実施する予定にしております。

今後も微力ながら地域包括システムの中の歯科の役割を果たせるように努力してまいります。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

「地域ケア会議について」

神出あんしんすこやかセンター
センター長・主任介護支援専門員 守口 博康氏



平素は、あんしんすこやかセンター（地域包括支援センター）の業務に関しご理解とご指導を賜りありがとうございます。高齢者の総合相談窓口として、市内に76か所設置しています。業務内容は介護予防の広報啓発・介護保険申請・地域団体・関係機関との連携・高齢者虐待・権利擁護・ヤングケアラーなど多種多様ですが、今回は、「地域ケア会議」のお話しをさせていただきます。

高齢者の皆さんが住み慣れた地域で暮らし続けられるように、地域の中でできる事を話し合う場を「地域ケア会議」と呼び、あんしんすこやかセンターまたは、神戸市が開催します。参加者は自治会長や民生委員などを含めた住民の方・医療・介護・障害の専門職・警察・消防・弁護士・司法書士・行政・学校・民間事業者・店舗等と幅広く参加頂けません。

地域ケア会議が必要な理由としては、令和22年（2040年）には75歳以上の高齢者が29万人を超え介護が必要な方、一人暮らしや認知症の高齢者が増える可能性が高く、みんなで支え合う仕組みが必要になってきます。（図参照）

圏域である神出町では、高齢化率が令和6年8月現在で44%を超えており、様々な課題に向き合う機会として、令和6年9月5日（木）に神出町北福祉会館で開催させていただきました。神出町里づくり地域協議会が策定した「神出町活性化プラン」の神出町の課題という内容で、町内で活動している団体や医療機関・高齢者施設・障害者施設等約50名の方に参加して頂きました。多職種混合のグループワーク形式で、昨年度の神出町地域ケア会議のアンケートで上がった課題や直近で話し合いたいことに関して多数の意見を聞くことができ情報共有ができた良い機会となりました。これからも地域の課題を住民の目線で考え、高齢者が暮らしやすいまちを目指してよりよい多職種連携に努め話し合いの場を開催していきたいと思ひます。



地域ケア会議の5つの働き

地域ケア会議には5つの働きがあって相互に関係し合っており、すべては地域で暮らす高齢者の困りごとの解決へとつながっていきます。

- ① 高齢者の困りごとの解決方法を考える働き ※地域ケア会議では個人情報を守られます。
- ② 困りごとに対して、地域みんなで協働してネットワークをつくりお互いの役割を明らかにする働き
- ③ 同じような困りごとを抱えた高齢者がいないか地域の課題を発見する働き
- ④ 地域に必要な資源は何かを明らかにして地域づくりを行う働き
- ⑤ 会議を積み重ねていき、地域に必要な取組みから、神戸市の新たな政策につなげる働き



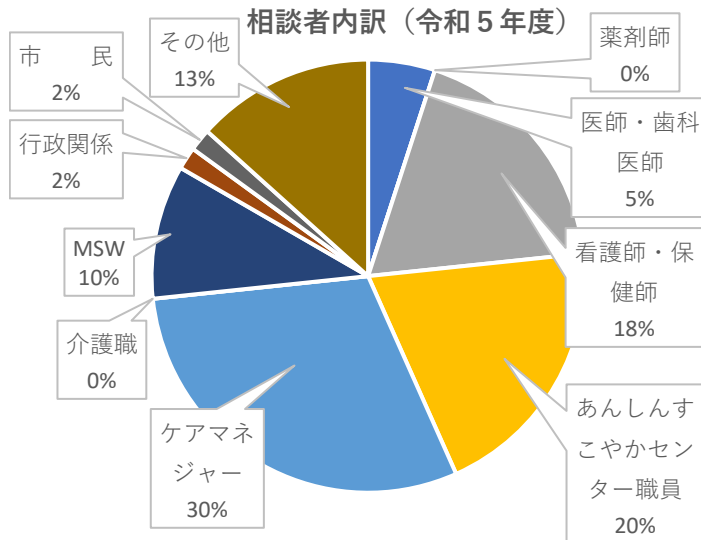
神戸市「地域ケア会議をご存じですか？」

西区医療介護サポートセンターは開設して8年目になりました。

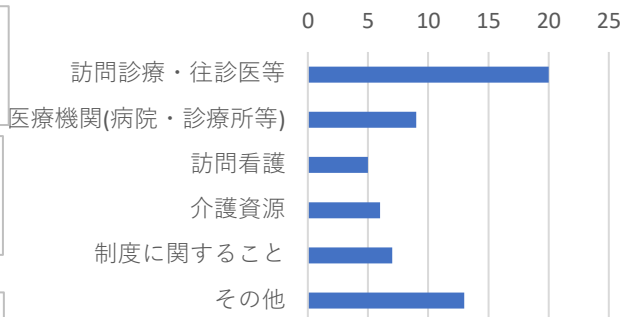
相談窓口では医療・介護・福祉の専門職より、医療介護についての相談を受け付けています。令和5年度の相談件数は60件/年でした。昨年度一番多い相談内容は「訪問診療・往診等についての相談」でした。西区は明石市、三木市、稲美町と隣接していることもあり、他市の医療介護専門職からの相談も多いのが特徴です。

医療介護資源の情報提供だけでなく、相談者とケースの情報を整理し、支援について共に考えていくことができるようにと努めています。

相談は電話だけの受付ではありませんので、会議や事業所訪問等においても、地域の医療・介護の課題・困りごと等も含めて、お気軽にご相談いただけると幸いです。



相談内容 (令和5年度)



市民を対象に、在宅医療・介護への理解を深めることを目的とした市民啓発を実施しています。

昨年度は、あんしんすこやかセンター圏域で在宅医療について研修会を実施しました。

本年度は区民全体向けに「健康と笑い～人生100年時代楽しく・おもしろく～」をテーマに第1部では「在宅医療」は藤原医院副院長藤原晃先生、「後方支援ベッド」は偕生病院院長横井峰人先生、「人生会議(ACP)」は中神クリニック院長中神祐介先生にご講演いただきます。

専門職の方だけでなく、利用者・家族にも是非ご案内いただき、在宅医療の学びと共に楽しい秋の時間をお過ごしに、西神中央ホールにお越し頂けたらと思います。



第2回西区医療フォーラム
区民向け講演会

健康と笑い

～人生100年時代 楽しく・おもしろく～

2024年11月9日(土) 14:00～16:00

(開場:13:30)

会場

西神中央ホール 神戸市西区美舞多田1丁目1-1でこ芸術文化センター内
地下鉄西神中央駅から徒歩3分

定員

300名

参加費

無料

申し込み

不要

プログラム

総合司会・進行
神戸市西区医師会 副会長 久野 英樹
開会の挨拶 神戸市西区医師会 会長 増井 裕樹

14:05～第1部
「住み慣れたご自宅で自分らしく過ごすために」
①講演「在宅医療」
演者:藤原医院 副院長 藤原 晃氏
②講演「後方支援ベッド」
演者:偕生病院 院長 横井 峰人氏
③講演「人生会議(ACP)」
演者:中神クリニック 院長 中神 祐介氏

15:00～第2部
「健康と笑い～人生100年時代 楽しく・面白く～」
演者:中井 宏次氏

閉会の挨拶 神戸市西区医師会 顧問 石原 健造

第2部 講師

中井 宏次氏
講師 元NPO法人笑い塾の主宰
日本笑い学会理事
岡山大学非常勤講師

●プロフィール
1975年大学を卒業し、製薬会社に入社。会社では秘書室長、学術研修部長、支店長など歴任。3度の転勤を経験。50歳の時ガンを患い、それを機に、笑いは免疫力を上げることにやっぴの不思議な力に興味を持ち、「笑いの社会貢献」を思い、残り的人生をどう過ごすかを考える。2007年「笑い塾」を設立。2007年「笑い塾」を設立。現在、全国の病院に講演。研修を通じて、「仕事や生活における笑い(ユーモア)の重要性(楽しさ)を指導し、「笑い(楽しさ)を届ける」を続けている。また、「働きやすく暮らして健康も増えている。雇われの人は、仕事は楽しく人生はおもしろく」

主催:西区医師会・西区医療介護サポートセンター 後援:西区役所

お問い合わせ先:西区医療介護サポートセンター TEL 078-797-7830

■ 研修16回 ワールド・カフェ～地域で生きるために～ 「もっと深めたい！病院との連携」

日時：令和6年7月18日（木）14:00～15:30 場所：セリオホール
 参加者数：73名（初参加者30名（約41%））
 内容：①参加病院紹介（2024年度版西区病院一覧表配布）



②テーマ：身寄りのない方を支えるために、有効だったこと、困っている事。支えるために何が必要？等

話し合いの内容「本人が困っておらず、成年後見や身元保証の話が進まない」「後見人はお金がかかり拒否がある」「生活保護にならない方の金銭的な支援が困っている」等、様々な課題がある中、特に生活保護にならない方に対する金銭的な支援については、病院、在宅双方において対応に苦慮している現状がありました。

今後の取り組み：今回の話し合いを受け、次回の事例検討会を「多職種で考える。金銭管理に課題のある方の支援について」をテーマに、関係機関をパネリストにお迎えし、研修予定としました。

研修後アンケートより

病院地域連携室「様々な課題を抱えながら知識や経験、連携を活用し支援していることが分かり、自分からも連携を強めていきたい」「様々職種の方が来て本当に驚いた。皆がこの地域の住民を支えようとしている姿そのものだった」



ケアマネジャー「病院の方々も連携を積極的に考え、連携を取って利用者を支えていきたい思いは同じであった」

障害者地域活動支援センター「自分の知らない領域の知識も深めておくことがいざという時の備えになる」

■ 研修会開催予定（詳細は西区医療介護サポートセンターのホームページをご覧ください）

開催予定日時	場所	テーマ
令和6年11月7日（木） 15:00～16:00	北須磨支所3階 オンライン	須磨区・垂水区・西区医療介護サポートセンター合同研修 「パーキンソン病の臨床上的諸問題」 講師：戸根内科神経内科医院 院長 戸根幸太郎氏
令和6年11月14日（木） 14:00～15:40	セリオホール	第14回多職種連携事例検討会 「多職種で考える。金銭管理に課題のある方の支援について」
R6年11月20日（水） 15:00～17:30		「言語聴覚士の摂食嚥下に対する訪問リハビリテーションの同行訪問研修」 講師：ふれあい訪問看護センター 小川高広氏（言語聴覚士）
R6年12月12日（木） 14:00～16:00	セリオホール オンライン	第27回 医療・介護関係者による合同研修 「呼吸器疾患と呼吸リハビリテーションについて（仮）」 講師：神戸市立西神戸医療センター 櫻井稔泰氏（呼吸器内科医） 神戸市立西神戸医療センター 杉本凌氏（理学療法士）
R7年2月27日（木） 14:00～（予定）	セリオホール オンライン	第28回 医療・介護関係者による合同研修（西3区合同研修） 「認知症について（仮）」 講師：新生病院 病院長 宮軒将氏



■ 編集後記

読書の秋、スポーツの秋、食欲の秋。皆さんはどの秋を堪能されていますか。
 サポートセンターも8月より新たに小倉コーディネーターを迎え久保・小倉の2人体制で頑張っています。
 今後共、どうぞよろしくお願ひ致します。

西区医療介護サポートセンターは、医療、介護、福祉の関係者からの在宅医療に関する相談への対応や、各種の研修、市民の方への在宅医療・介護に関する普及啓発などの業務を行っております。
 医療・介護・福祉関係者の皆様、お気軽にご相談ください。



西区医療介護サポートセンター コーディネーター：久保・小倉
 受付時間：月～金曜日（祝日・年末年始を除く）電話：078-797-7830 FAX:078-797-7831
 西区医療介護サポートセンター：<https://kobe-iks.net/area/nishi>

西区医療介護サポートセンター
 ホームページ 2次元コード

★次号は令和7年4月発行予定です

※「西区サポセン通信」Vol.1～今月号までホームページに掲載しています。上の2次元コード・URLからご覧いただけます。